



テレマティクスで取得する車両の位置情報と人工衛星の浸水深データを活用し、 保険金のお支払いを最短翌日に短縮

2022年3月7日

MS & ADインシュアランス グループのあいおいニッセイ同和損害保険株式会社（代表取締役社長：金杉 恭三）は、テレマティクス※1デバイスから取得する車両の位置情報と人工衛星を利用して算出した浸水深データを掛け合わせ、広域災害における浸水車両の保険金早期支払に向けた実証実験を、スイス再保険会社（日本における代表者：百々 敦浩）と共同で2月1日より開始しました。

※1「テレコミュニケーション」と「インフォマティクス」を組み合わせた造語。カーナビゲーションやGPS等と移動体通信システムを利用して、様々なサービスを提供する仕組み

1. 背景

近年の台風やゲリラ豪雨による広域災害の多発に伴い、車両の水没事故が増加しています。水害による車両損害が発生した際は立ち会い調査によって損害の確認が必要ですが、被災地域にすぐに入ることが出来ず、お客さまに保険金をお支払いするまで平均約2～3週間程度を要しています。

また、昨今のコロナ禍の状況を踏まえながら調査に必要な支援体制を構築し、人員を被災地域に派遣することも困難な場合が想定されます。

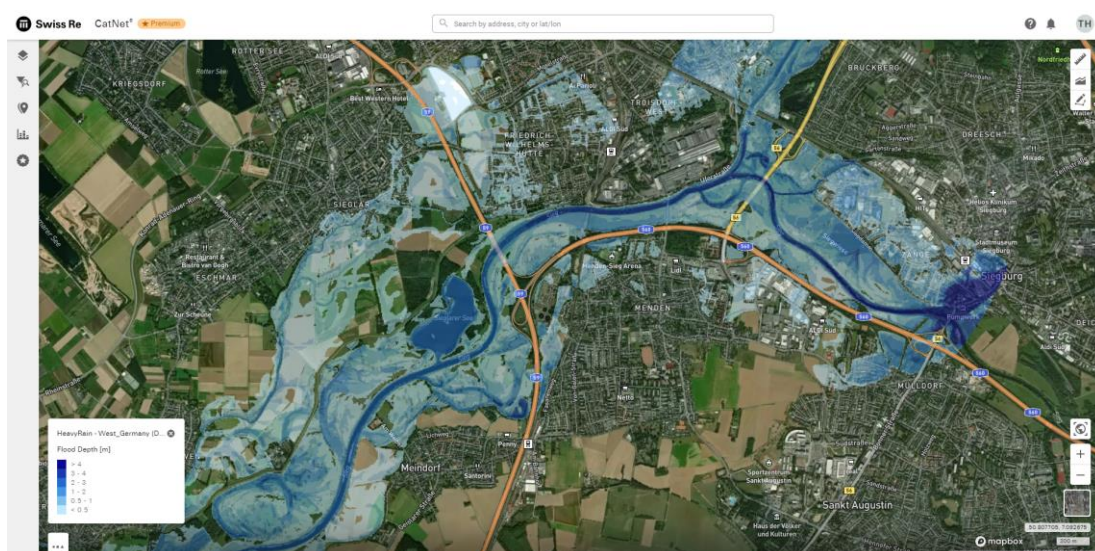
これらの課題を解決し、より迅速にお客さまに保険金をお支払いするため、今般、テレマティクスデバイスから取得する車両の位置情報と人工衛星を利用して算出された浸水深データを活用した実証実験を、スイス再保険会社と共同で実施することとなりました。

2. 実証実験の概要

本実証実験では、スイス再保険会社が独自に開発するジオ・リスクプラットフォーム CatNet® Premiumに、人工衛星による高解像度(HD)浸水フットプリントを搭載し被災地域の浸水深を算出します。得られた浸水深データとドライブレコーダー等の通信車載器から取得した車両の最終停車位置情報を掛け合わせることで、車両の浸水深を把握します。

これにより、立ち会い調査を実施することなく全損判断を行うことができ、事故のご連絡から最短翌日にお支払い手続きを実施することが可能となります。

<参考>2021年7月にドイツで発生した洪水（人工衛星による高解像度(HD)浸水フットプリント）



3. 今後の展開

本実証実験の結果を踏まえ、2022年7月に本スキームの運用開始を目指すとともに、広域水害が発生した際には被災車両の全損判断について一括認定にも取り組んでいきます。

また、スイス再保険会社が保有する人工衛星データから算定した該当地域の浸水情報を活用することで、家屋についても同様の損害認定を可能とするスキームの構築を検討するとともに、グループ事業会社間で本取組みの共同利用等を検討し、グループ全体でお客さま体験価値の向上に努めていきます。

以上

当社は、社会との共通価値を創造し、目指す社会像である「レジリエントでサステナブルな社会」を実現するため、SDGs（持続可能な開発目標）を道しるべとし、地域の皆さまに貢献する活動を行ってまいります。

